

令和元年9月26日

関係各位

熊本大学大学院生命科学研究部産科婦人科学講座
教授 片渕秀隆

拝啓

熊本に住んで46年になりますが、毎年この時期を迎えると、「随兵寒合」は熊本の9月後半の季節を見事に表現した一語だと思います。9月22日には第75回教室同窓会を開催し、台風が接近していたにも関わらず遠方からもおいで下さり、例年になく活気を帯びた会となりました。私が現在の立場を頂いたのが2004年9月1日でしたので、丁度15年が過ぎ、それを記念した企画を催しました。教室をこれまで支えてくれた大場 隆准教授、田代浩徳教授、本田律生講師は、「会員の時間」でこれまでの産婦人科医としての人生を振り返り、いずれも感慨深い内容でした。また、今後の教室を牽引すると期待されている6人は、「教室次世代の担い手たち」としてこれまでの成果を披露してくれました。特別講演には京都大学の万代昌紀教授をお招きし、柔軟な頭脳から繰り出される卵巣癌の斬新な免疫療法に一堂圧倒されました。ある60代の会員に「教室史において語り継がれる同窓会だった」との評価そのままに、翌日の小川町のゴルフ場での同窓会懇親コンペはまさに秋晴れの日で、プレーヤーは楽しい一日を過ごされました。

記念講演として、教室第2代山崎正董教授の偉業を顕彰して「山崎正董のデスマスクと肥後の医育史」のタイトルで、日本最初の公立医学寮である再春館の創設以来263年の医学史を振り返りました。小峯墓地に眠っていた墓には日本では珍しい山崎のデスマスクも収納されていました。しかし、熊本地震で墓が倒壊したことをきっかけに、8月5えれました。山崎は本学中興の祖とうたわれ、残した数々の偉大な業績の中で特筆すべきは、1929（昭和4）年に、再春館以来の肥後教育の一大通史である『肥後醫育史』を編纂、上梓したことで、これによって私たちは現在、その長い歴史を具さにみることが出来ます。また、同じ年に、県立医科大学から国立医科大学へ移管し旧六のひとつとなった官立熊本医科大学の初代学長に就任しています。

10月と11月の予定表を同封致しました。私が理事を務めます日本癌治療学会の学術集会が10月24日（木）～26日（土）、21年ぶりに福岡で開催されます。様変わりした昨今のがん治療を反映して多職種・がん患者さんが一堂に集う日本最大のがんの講演会です。二人に一人ががんになる時代、普段縁のない方も実感できる好機だと思います。

敬具